

八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立第二中学校
校長名 山 川 毅 公印

令和7年度教育課程について（届）

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

日本国憲法と教育基本法の理念に基づき、健康で豊かな心をもつ生徒の育成をめざし、次のようなめざす生徒の姿を掲げ本校の教育の基本とする。

校訓 「自律」

◎ 進んで学ぶ生徒 「学ぶ」 ○ 心の豊かな生徒 「思いやる」 ○ 協力し勤労する生徒 「やりぬく」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 確かな学力の育成

- ① 基礎基本を重視した学習活動を推進し、家庭学習の定着を図る。生涯にわたって学習できる基礎を培う。
- ② 生徒の興味・関心や習熟度に応じたきめ細かな指導の充実を図り、一人ひとりの個性や能力を伸長させる。「誰一人取り残さない」教育を推進する。
- ③ 各教科の特性に応じて、生徒1人1台の学習用端末を有効的に活用する。
- ④ 学ぶ意義を理解させるとともに、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等を育成する。

イ 豊かな心の育成

- ① 学校の教育活動全体を通じて、人への思いやりの気持ちを養い、人権を尊重する心を育てる。
- ② 「特別の教科 道徳」の研修とその趣旨を踏まえた授業を実施し、道徳教育をより一層充実させ、豊かな心と規範意識を育てる。
- ③ 生徒の自己肯定感を高めることで、失敗にもくじけず、困難を乗り越えることができる心を育てる。

ウ 健やかな体の育成

- ① 基本的な生活習慣の確立をめざし、健やかな体の育成を図る。
- ② 運動・スポーツの特性や魅力に親しみ、運動の日常化につなげる。

エ 不登校生徒のための環境整備と個々の状況に応じた支援

- ① 生活指導部会を中心に、不登校生徒一人ひとりの状況を把握し、安心安全な居場所づくりに取り組む。
- ② 関係諸機関との連携を深め、不登校生徒一人ひとりへのサポート体制を整える。

オ いじめ総合対策を踏まえた、いじめ防止等の取組

- ① 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめをしない、させないために自他の生命と人権を尊ぶ心情を養う。
- ② 学校いじめ対策委員会を中心に、未然防止、早期発見に努め、いじめが確認された場合は早期に対応する。
- ③ 生徒がSOSを出しやすい環境をつくり、生徒の相談できる大人の存在を把握する。

カ 特別支援教育の充実

- ① 八王子市第五次特別支援教育推進計画に基づき、教職員の特別支援教育に関する理解を深め、支援を要する生徒への対応を学校全体で組織的に行う。また、関係諸機関との連携を深め、生徒の生活や学習における困難を改善、克服するために、合理的配慮を組織的にすすめる。
- ② 特別支援学級と通常学級の交流や協働での学校行事を通して、他者を尊重し協力する姿勢を育成する。

キ 小中一貫教育のさらなる充実【第二中学校グループ（第九小学校）】

- ① 「よき社会人」の育成をめざし、児童・生徒の発達段階を踏まえた9年間を見通した系統的な指導を行う。
- ② 「よき社会人」とは、誠実さ、協調性、粘り強さをバランスよく兼ね備えた人間であると考え、第二中学校グループ（第二中、第九小）の『義務教育9年間で育てたい児童・生徒像』を『誠実で、協調性があり、粘り強く困難に立ち向かう児童・生徒』とする。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科

- ① 全教科を通じて、生徒の粘り強く課題に向かう力を育成すると共に、互いの考えを尊重し、仲間の話を聞くこと、自分の考えを上手に表現する場面を設定し、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- ② 八王子市学力定着度調査等の結果を受け、生徒一人ひとりの学習内容の理解や定着状況を把握し、授業規律の確立と授業を中心として家庭で復習するなどの望ましい学習習慣及び学習方法を定着させる。
- ③ 1人1台の学習用端末やICT機器を活用した指導方法の工夫改善によって、生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着と膨大な情報から有用なものを見分ける力を含めた情報活用能力の向上を図る。
- ④ 毎学期実施する定期考査の結果や生徒への授業評価アンケートの結果を分析して、指導方法や評価方法を絶えず見直し授業改善を図っていく。
- ⑤ 数学について、自ら課題に向かう学習態度の育成と基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に位置付けた「朝の10分間学習」を、計画的に全校体制で推進する。
- ⑥ 学校図書館司書と連携し、学校図書館を活用した調べ学習等の取組みを通して自ら学ぶ意欲や態度を育む。

イ 総合的な学習の時間

- ① 生徒一人ひとりの学習課題を設定し、教科横断的な学習や探究的な学習を行うことを通し、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えられるようにする。
- ② 郷土学習や地域とふれあいを深める体験、都会と違う生活や文化にふれる体験から、地域に伝わる文化や伝統の良さを再認識し、郷土を愛する心や誇りをもって豊かに生活しようとする態度を育てる。
 - ・第1学年では、「八王子について学ぶ」をテーマとし、八王子の伝統文化や歴史、産業等から課題を設定して研究を深める。また、移動教室では、農村地域の生活や文化にふれ、八王子と農村地域の違いについて考えさせる。
 - ・第2学年は、「東京について学ぶ」をテーマとする。校外学習では、東京の文化や歴史を学び、まとめ・発表する場を設定し、思考力、判断力、表現力等を育成する。
 - ・第3学年は、「日本と世界について学ぶ」をテーマとする。日本の伝統や文化について、関西方面の修学旅行で実地体験と調査を行い、他者と協働した学習活動を進める。さらに、英語科の学習内容と関連させ、外国人へのインタビューを行い、国際社会との関わりの中で必要な資質について考えさせる。
- ③ 地域の方を外部講師とする「ふれあい講座」を年2回実施して、地域の一員としてのアイデンティティを養い、地域の魅力や豊かな地域性について触れて、興味関心を高め、探究する態度を育てる。

ウ 特別活動

- ① 集団の一員としての自覚を深め、社会生活上の規範意識や責任感を高めていくとともに、将来の進路について考えることができるよう体験的な活動等の充実を図る。
- ② 生徒会朝礼やあいさつ運動、生徒会宣言を基にしたいじめをなくす取組等、自治的活動である生徒会活動、学年での活動の活性化を図り、集団や社会の一員として諸問題を解決しようとする態度を育てる。
- ③ 運動会、合唱コンクール、移動教室や修学旅行等の集団宿泊的行事の充実を図り、望ましい人間関係を形成し、相手を尊重する心を育てる。
- ④ 地域クリーン活動、地域主催の行事にボランティアとして参加することにより、地域とのふれあいを大切にした社会性の育成を図り、地域の一員としての自覚を育てる。

(2) 特別の教科 道徳を要とする道徳教育

- ア 道徳教育の全体計画および別業をもとに、他教科等との横断的な関連を図りながら教育活動全体を通して計画的に実施する。
- イ 特別の教科 道徳では、生命の尊さ、親切、思いやりに重点をおき、互いを認め合い、よりよい生き方について考えさせる。ルール、マナー、情報モラル等の社会性を高め、道徳性を養う。
- ウ 生徒同士の協働活動、教師との対話、先哲の考え方を通じ、自らの考えを広げ深められる授業づくりを学校全体で行う。
- エ 生徒一人ひとりの成長を認め、特別の教科 道徳の評価のなかで効果的に励ますようにする。
- オ 「道徳授業地区公開講座」や学校公開等で授業を保護者・地域に公開する。また、意見交換会では学校の取組やねらいを説明し、保護者・地域とともに道徳教育を考える場とする。

(3) キャリア教育

- ア 第二中学校グループが一体となり、9年間を見通した系統的な指導を推進し、生徒が自己理解を深めることができるようにする。また、はちおうじっ子キャリア・パスポートを効果的に活用できるように、小学校との引継ぎを丁寧に行い、生徒一人ひとりに応じた進路指導や生徒理解につなげる。
- イ 第1学年では、職業調べを通してさまざまな職業への理解を深める。また、自己の適正について知るためにレディネステストを実施し、自己の生き方を考える。
- ウ 第2学年では、近隣の上級学校と連携して、上級学校の先生の話聞く会を開催する。また、職場体験を通して望ましい勤労観や職業観を身に付け、よりよく生きる力を育てる。
- エ 第3学年では、これまでの進路学習を基に、自己の適性を踏まえ自ら進路を切り拓く力を育成する。

(4) 特別支援教育

- ア 関係諸機関と連携した特別支援教育の充実をテーマとした校内研修を実施し、生徒の特性とその具体的対応への理解を深めて、教員の指導力を向上させ校内の指導・支援体制を見直し改善する機会として更に充実させる。また、特別な支援を要する生徒に応じたスクリーニングを行い、家庭、担任、特別支援教室が連携して学校生活支援シートや連携型個別指導計画を活用した組織的支援をすすめる。
- イ 生徒の生活や学習上の困難を改善するために、デジ教科書の導入など、1人1台の学習用端末を効果的に活用する。また、生徒の状況に応じてオンラインによる面談、学習支援にも取り組む。
- ウ 特別支援学級と通常学級の交流を運動会、合唱コンクール、校外学習、宿泊行事、交流授業等で行い、生徒相互の理解を深める。また、障がいや特性を正しく理解し、他者を尊重し協力する姿勢を育成する機会を、朝礼、生徒会活動、部活動等日常の中に実感させるインクルーシブな教育を推進する。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ① 生活のきまりについて、生徒が主体的に関わり、その見直しや改善を図ることができるようにする。
- ② 安全指導、避難訓練、薬物乱用防止教室等を通じて、危機の回避や自らの安全を守るための考え方や行動の仕方を身に付けさせる。また、自転車交通安全教室等を実施し、交通安全教育の充実を図る。
- ③ 生徒が性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないために、教材「生命（いのち）の安全教育」を基に、全学年で発達段階に応じて保健体育科や特別活動等で適切な指導を行う。

イ いじめ防止等の取組

- ① 週1回の「いじめ対応のための時間」では、生徒と教員の二者面談による情報を共有し、いじめの早期発見、早期解決につなげる。また、「メディアリテラシー教育」によるSNS上におけるトラブルに関する授業やいじめを題材とした授業を年3回以上行い、相手を尊重する心や思いやりの心を育てる。
- ② 毎月実施する学校生活アンケートやふれあい月間アンケート、教員との面談等を通して、いじめやトラブルの早期発見・早期対応を徹底する。週1回の学校いじめ対策委員会で生徒の情報を共有し、学校全体でいじめ防止に関する指導にあたる。また、気になる生徒をリストアップし、教員で共有する。
- ③ 「八王子市いのちの大切さを共に考える日」では、6～7月に校長講話、いじめに関する道徳授業（全学年）、いじめ防止プログラム（第1学年）、弁護士によるいじめ予防授業（第2学年）、認知症サポーター養成講座（第3学年）を行う。

ウ 不登校生徒への支援等

- ① 不登校生徒の居場所として「オアシス教室」を毎日開設し、不登校対応巡回教員と連携して、「つながるプラン」に則した不登校生徒の支援ニーズの把握や社会的自立に向けた支援を工夫改善していく。
- ② 生活指導部会では、登校支援コーディネーターを中心に、個票システムを効果的に活用して不登校（傾向）生徒の情報交換を行い、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とも連携し、組織的に支援する。また、保護者との連絡を密に行い、関係機関との接続や連携協力を迅速にすすめる。

(6) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組 【第二中学校グループ（第九小）】

- （取組1） 第6学年を対象として、部活動体験、中学校授業体験を行う。また、小中学校の代表児童・生徒の定期的な話し合いの機会を確保し、はちおうじっ子サミットの取組を中心とした共通テーマの活動により、親睦を深め学校生活向上を図りながら小中の接続に安心感と期待感を確保する。
- （取組2） 第九小学校と年3回（学期に1回）の小・中合同研修会を実施する。「学力定着プロジェクトチーム」を中心にグループ内の児童・生徒における課題を探り、指導内容の検討を重ねる。
- （取組3） 合同研修会や合同校内委員会等を通じて、グループ内の配慮を要する児童・生徒の状況についての情報共有や生活習慣、規範意識等の課題を共通理解し、系統的に指導する。
- （取組4） 地域、保護者、第九小学校との年3回（学期に1回）の青少年対策第二地区委員会主催クリーン活動の企画運営を支援し、地域への感謝の気持ちや地域貢献に対する意識を高める。

イ 学力向上の取組

- ① 「はちおうじっ子ミニマム」を活用して、個々の理解度や達成度の把握に努め、放課後等の学習意欲を高める個別のサポートをすすめ、社会生活を営む上で最低限身に付けるべき基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。また、夏季休業学習教室を行い、生徒主体の補充学習と発展的な学習を支援する。
- ② 校務分掌組織内に学力向上担当者を置き、「朝の10分間学習」により、生徒一人ひとりが課題に向かう主体的な学習態度の涵養を全校体制ですすめ、習得目標問題の確実な定着を図る。

ウ その他

- ① 第二中学校グループが一体となり、情報活用能力系統表に基づき、タイピング入力で円滑に文章を作成することができる力を身に付けさせる。学習用端末を活用して、レポートを作成する機会を増やす。
- ② 生徒1人1台の学習用端末を活用し、家庭学習や長期休業日の課題としてドリル型学習コンテンツに取り組む。また、オンラインを活用した朝礼や生徒会の取組（第九小学校児童会との交流）等を行う。
- ③ 「八王子市の部活動改革」がめざす方向性を基に、再編した学校部活動への理解と協力を小中学校、児童・生徒、保護者、地域とすすめて、生徒の活動の充実を図り、一人ひとりに寄り添ったより豊かな中学校生活を作る。
- ④ 地域の夏祭り、どんど焼き等地域行事で吹奏楽部が演奏する等の積極的な関わりを後援し、一般参加推進のポスター校内掲示を続ける。申請を元に学校外の活動等を評価し、通知表にて家庭通知する。
- ⑤ 「第二中学校2020レガシー」として、生徒の興味関心に応じた講演会等を実施し、夢をもつことや努力を積み重ねることの大切さについて学ばせる。